

# 第9号議案

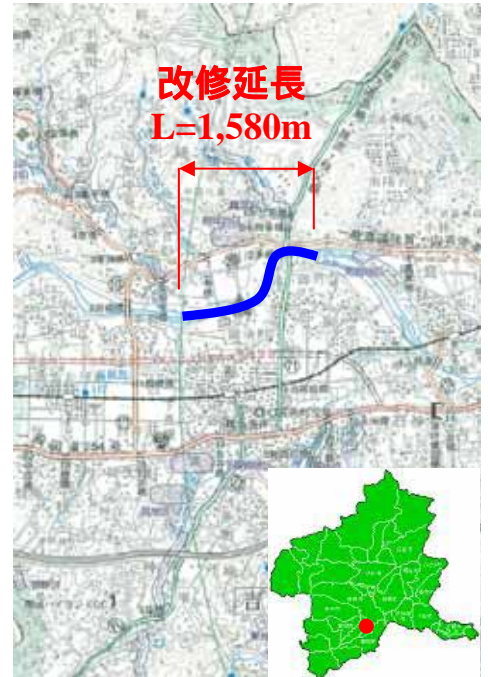
社会資本整備総合交付金事業(河川改修)  
かぶらかわ  
 一級河川 鑓川 高崎市

着工年度  
 評価理由

平成16年度  
 再評価後5年経過

## 1. 事業の目的

鑓川は、西部地域を代表する河川延長約58.8km、流域面積632.4km<sup>2</sup>、69支川を持つ一級河川である。多胡橋上下流の本事業区間は、断面が狭小で河道が屈曲しているため、幾度となく家屋の浸水被害が発生している。平成19年の台風9号による出水では浸水面積3.3ha、床上浸水11戸、床下浸水6戸の被害が発生した。  
 このため、河川改修を行い、洪水による浸水被害を軽減することにより、安全で安心できる地域作りを行うことを目的にしている。



平成19年9月の台風による出水と浸水状況

## 2. 事業概要と進捗状況

### 事業概要

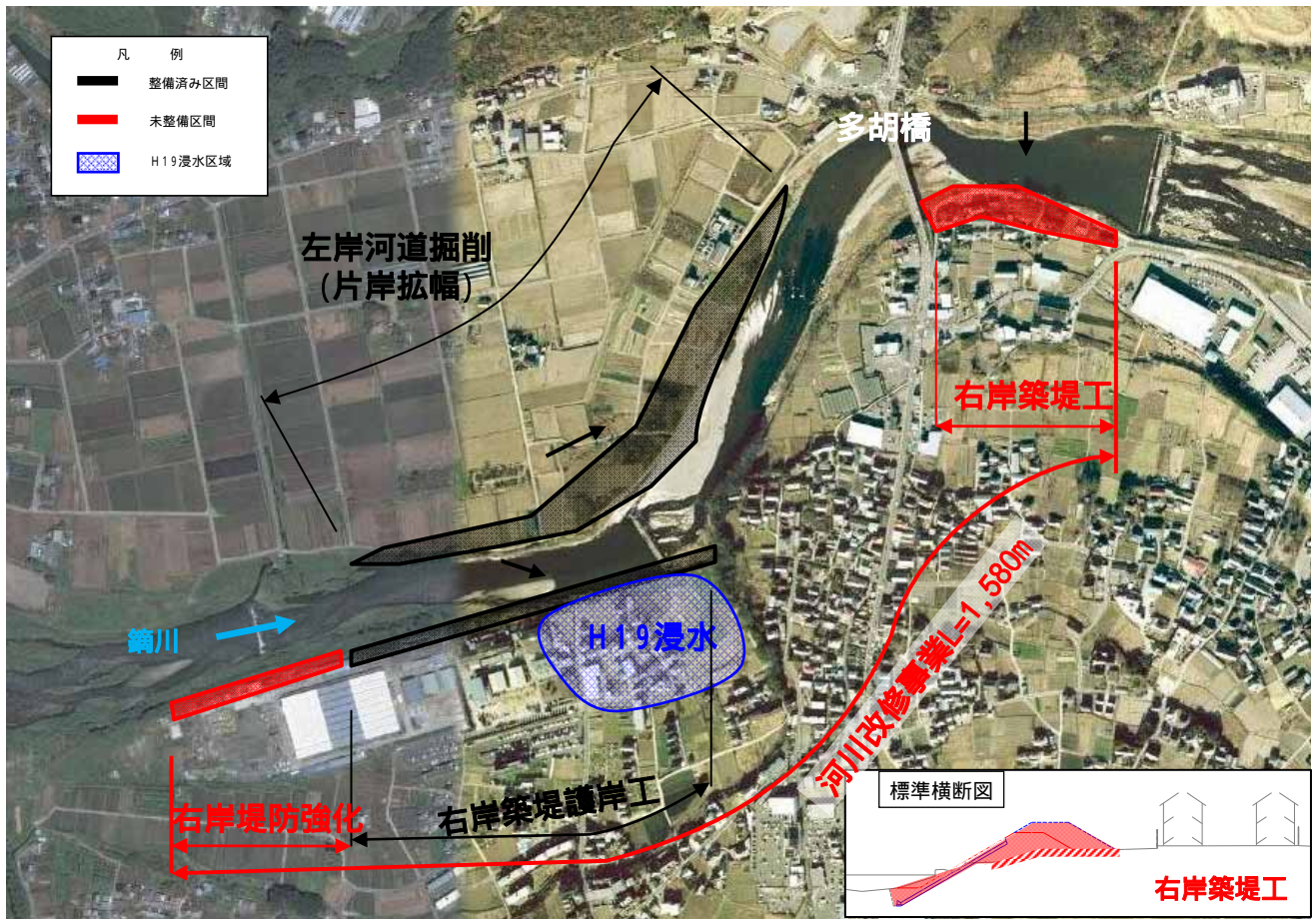
事業場所	たかさきよしいまちいわさき 高崎市吉井町岩崎 ~ たかさきよしいまちいけ 高崎市吉井町池	
区分	今回	前回(H17)再評価時
全体事業費	950百万円	1,340百万円
全体事業費増減の理由	護岸工見直しによるコスト縮減	
事業期間	H16~H25	
事業内容	改修延長 1,580m 計画規模 1/50 計画流量 3,200m <sup>3</sup> /s (現況流下能力1,300m <sup>3</sup> /s)	改修延長 1,080m 計画規模 1/30 計画流量 2,800m <sup>3</sup> /s (現況流下能力1,300m <sup>3</sup> /s)

### 事業経緯

### 進捗状況

年度	主な経緯		全体計画	現在の進捗状況(進捗率)	前回評価時の進捗状況(進捗率)
H16	事業着手				
H16	用地買収着手	事業費	950百万円	590.3百万円 (62.1%)	90百万円 (9.5%)
H17	工事着手	用地買収	24,100m <sup>2</sup>	21,600m <sup>2</sup> (89.6%)	9,746m <sup>2</sup> (40.4%)
H19	台風9号の出水による計画規模の見直し	計画延長	1,580m	780m (49.4%)	0m (0.0%)

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

多胡橋上流の右岸側は、洪水による家屋の浸水被害が度々発生し、避難勧告も発令されている。当箇所については緊急対策費等も充当して築堤や河道掘削を行い流下能力の向上を図ってきたが、当地区全体の治水安全度を確保するためには、引き続き堤防強化や多胡橋下流の築堤整備を行う必要がある。



平成13年9月台風15号



平成19年9月台風9号

### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

浸水被害の原因が流下能力不足及び堤防高不足が明らかであり、築堤及び河道掘削による断面拡大が、治水効果やコスト面でも最良の方法である。

なお、平成19年の出水に対し緊急対策を行い、浸水被害箇所の改修を前倒しし、平成20年度に工事を完成させたほか、出水を契機に計画流量や計画規模を見直すなど、上下流のバランスを考慮しながら、実績降雨に基づいた改修計画としている。



多胡橋上流の計画横断面図



費用便益分析

		前回再評価時		今回再評価時		備考
算出根拠マニュアル		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		
基準年		平成17年		平成21年		
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比	
費用 (千円)	工事費	1,159,000	91.7%	916,150	89.1%	
	維持管理費	105,000	8.3%	112,310	10.9%	
	残存価値	-	-	-	-	
費用合計 (C)		1,264,000		1,028,460		
便益 (千円)	一般資産被害軽減便益	1,250,000	58.5%	1,505,776	57.1%	氾濫面積A=10.9ha 浸水家屋N=37戸
	農作物被害軽減便益	5,000	0.2%	18,363	0.7%	
	公共土木施設等被害軽減便益	776,000	36.4%	936,516	35.5%	
	営業停止被害軽減便益	70,000	3.3%	91,812	3.5%	
	応急対策費用軽減部駅	34,000	1.6%	36,726	1.4%	
	残存価値	-	-	47,520	1.8%	
便益合計 (B)		2,135,000		2,636,713		
費用対効果分析 (B/C)		1.69		2.56		

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

不測の事態により長期化】

一定の治水効果を確保するためには、1,580mの河川改修が必要になるため元々長期計画だった。



## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・ H19の出水を契機に計画流量や計画規模を見直し、実績降雨に基づいた事業計画の変更を実施している。
- ・ 事業計画の見直しにより、全体事業費を約4億円縮減する。
- ・ 河川改修を行い、洪水による浸水被害を軽減することを目的としている。
- ・ 洪水による家屋の浸水被害が度々発生し、避難勧告も発令されているため、改修の必要性は非常に高い。
- ・ 現在、延長ベースで約50%まで進捗しており、事業を継続して、地区全体の治水安全度の早期確保を図りたい。